

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年02月28日

計画の名称	通学路交通安全対策実施プログラムに基づく通学路整備（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～令和02年度（5年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	草津市												
計画の目標	通学路の安全確保に向けた取組を推進するために策定した通学路交通安全対策実施プログラムに基づき、通学路整備を実施し、通学路の交通安全の確保を早急に図ることを目標とする。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,415	A	1,415	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H30末	H32末
1	児童・生徒数の増加が見込まれる中、登下校中の事故件数の増加を抑制し、児童・生徒1000人あたりの登下校中の事故件数を3.42（H28）から3.19（H32）に減少させる。 市内の児童・生徒1000人あたりの登下校中の事故件数	3件	3件	3件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
現況値・目標値の詳細：H28当初）3.42件 H30末）3.27件 H32末）3.19件												

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)(仮称)追分南6 5号線	現道拡幅 L=90m	草津市						0	-	
	A01-002	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)木川川原線ほか	カラー舗装 L=17.5km	草津市						24	-	
	A01-003	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)東草津北1号線	現道拡幅 L=35m	草津市						2	-	
	A01-004	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(1)西渋川集線	現道拡幅 L=320m	草津市						10	-	
	A01-005	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(2)追分矢倉南山田線	歩道整備 L=140m	草津市						103	-	
	A01-006	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)南笠東29号線	交通安全施設整備 L=350m	草津市						4	-	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-007	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)東草津北6号線	路肩改良 L=110m	草津市						19	-	
	A01-008	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(1)草津駅下笠線他7線	駅周辺のバリアフリー化 L=4.8km	草津市						85	-	
	A01-009	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)穴村北大萱線	路肩改良 L=150m	草津市						13	-	
	A01-010	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)上笠北6号線	路肩改良 L=150m	草津市						22	-	
	A01-011	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	改築	(他)下笠25号線	現道拡幅 L=100m	草津市						6	-	
	A01-012	街路	一般	草津市	直接	草津市	S街路	改築	(都)大江霊仙寺線(南笠工区)その1	道路新設 L=388m	草津市						48	-	

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-013	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)青地馬場線	路肩改良 L=40m	草津市						2	-	
	A01-014	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)新草津川北線	現道拡幅 L=80m	草津市							6	-
	A01-015	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)矢橋33号線他3線	歩道整備 L=800m	草津市							103	-
	A01-016	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)駒井沢3号線	路肩改良 L=100m	草津市							10	-
	A01-017	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)野路3号線	路肩改良 L=200m	草津市							29	-
	A01-018	街路	一般	草津市	直接	草津市	S街路	新設	(都)大江霊仙寺線(南笠工区)その1	道路新設 L=388m	草津市							867	-

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H28	H29	H30	H31	R02					
一体的に実施することにより期待される効果																					
備考																					
道路事業	A01-019	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	改築	(他)下笠25号線	現道拡幅 L=100m	草津市						37	-			
	A01-020	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)新草津川北線	現道拡幅 L=80m	草津市						17	-			
	A01-021	道路	一般	草津市	直接	草津市	市町村道	交安	(他)志那中下物線	未就学児等の移動経路等の緊急安全点検に基づく整備	草津市						8	-			
												小計						1,415			
												合計						1,415			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 草津市建設部道路課	事後評価の実施時期 令和4年3月
	公表の方法 草津市のホームページに掲載する
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の拡幅、側溝の暗渠化による歩行空間の確保や、ガードレール等の交通安全施設の設置により安全な通学路空間が確保できた。 ・歩道や路側帯のない箇所への歩道設置により安全な通学路空間が確保できた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両の通行が不可能な狭隘道路において道路の拡幅整備を行ったことで、生活環境や防災環境が向上したとともに、道路の安全性も向上した。 ・駅周辺道路の段差解消や勾配改善等のバリアフリー化整備により、高齢者や障害者をはじめとする市民のスムーズな移動が可能となった。
特記事項（今後の方針等）	
<p>以下の計画に掲げられている交通安全に関する取組を継続して行う。</p> <p>草津市通学路等安全対策実施プログラム（R3.12策定） 草津市自転車安全安心利用促進計画（H28.3策定、計画期間：H28～R7） 第11次草津市交通安全計画（R4.3策定、計画期間：R3～R7）</p> <p>【継続して行うソフトな取組】</p> <p>登下校中の事故は自転車事故が大半を占めていることから、自転車利用に関する取組を継続して実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同点検の定期的な実施と対策の検討・対策の実施（歩行空間確保、防護柵設置、交通規制、交通安全教育等の実施） ・自転車安全安心利用指導員（警察OBによる登校時間帯での交通安全指導や警察・団体との合同啓発活動の実施） ・自転車通学交モデル推進校（自転車通学安全モデル推進校を指定し、生徒有志による啓発活動の実施） ・自転車安全安心利用教室（スタントマンによる自転車と自動車の事故を再現し（スケアードストレート方式）、事故の危険性を学ぶ） 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	3件	<p>・当初現況値（3.42件）と比べると児童・生徒の1,000人あたりの事故件数は減少したが、最終実績値は（3.36件）であり、最終目標値（3.19件）を達成することはできなかった。・令和2年度は例年と比べて自転車事故が大きく増加しており、全体に占める自転車事故の割合は92.5%であった。事故形態としては自動車との衝突・接触が多い。・令和2年度はコロナ禍での移動手段の変化により、自動車やバイク、自転車移動が増えたことから、これに伴い登下校時間帯の事故が増加したと推察する。</p>
	最終実績値	3件	